

## 学校の近くに見られる古いもの2



### 民<sup>みん</sup>よう碑<sup>ひ</sup> (飯豊小)

大正4年、相馬の程<sup>ほどた</sup>田に生まれた杉本<sup>すぎもと</sup>崇夫<sup>よしお</sup>先生は、8才で民ようを習い始めました。

民よう教室をひらいたり、テレビ、ラジオなどで相馬の民ようを歌いつづけました。

相馬の民ようは全国に広まり、野馬追祭りとともに相馬の名を高めました。(碑)



### 百尺<sup>ひやくしゃく</sup>観音<sup>かんのん</sup> (日立木小)

仏<sup>ほとけ</sup>さまをほる荒嘉明<sup>あらよしあき</sup>さんは、全国の仏さまを見て歩きました。

そして、千体の仏さまをほるよりは、一生に一つの仏さまをのこそうと岩山を切りひらき、百尺<sup>ひやくしゃく</sup>観音<sup>かんのん</sup>さまをほりました。

高さが26.5メートルで岩をほった仏さまでは日本一の大きさです。人びとの幸せを見守っています。(仏)